

高校における日本語教育 についての実践報告

～北一女の場合～

新井 芳子

1. はじめに

台湾はすでに多元化の社会になっている。人々の価値観は多種多様になり、政治・経済・社会の面でもバラエティーに富んでいる。ここ 10 年間の経済成長率も貿易立国の政策が功を奏し、ずっと高い水準を維持し続けてきている。経済の発展とともに外国資本からの投資は政府の投資誘致政策と相まって製造業のみならず、金融・保険・小売業といったサービス業にまで年々増えてきている。また、海外旅行の経験者も増加し、国と国との間では人の往来が相当頻繁になっている。そして、各家庭では有線放送を入れさえすれば、いつでも外国の情報を簡単に入手することができる。こういった背景から、外国語の学習者も急増の様相を呈している。なかでも日本語の学習者の数は第二外国語の中では群を抜いている。学校教育においても、最近、大学では学生は英語、日本語、フランス語、ドイツ語、スペイン語などから第一外国語を選択できるようになってきている。また、1996 年には教育部（日本の文部省に相当）による高校生の第二外国語の実験教育が行われ、台湾全省で 10 校^①の高校がそれに当たった。台北市においてはこの他に学校独自による実験教育が公立高校の 2 校^②で行われた。

① 景美女中、陽明高中、開平高中、埔里高中、鹿港高中、協同高中、金陵女中、淡江高

この実験教育の結果を受けて、1997 年には台湾全省 17 校^②の学校で更に実験教育として第二外国語が導入された。

筆者は当初の実験教育の段階から台北市立第一女子高級中学（以下北一女と略称）で第二外国語としての日本語教育に携わってきた。

本稿は今までの北一女での教学結果を整理した実践報告であり、今後の高校における第二外国語としての日本語教育に関心を持つ人々の参考資料となれば幸いである。

2. 高校における第二外国語

1995 年 10 月、教育部より「高級中學課程標準」（指導要綱に相当）が発令された。導入の目標には次の 3 点が掲げられている^③。

- (1) 生徒に第二外国語を学ぶ興味を持たせ、正確な学習方法と積極的な学習態度を身に付けさせる。
- (2) 将来の進学、或は就業に備えて、第二外国語の「聴く」「話す」「読む」「書く」力を養わせる。
- (3) 生徒は学習する第二外国語の国の民族、文化、及び国際事情、人文並びに科学技術の新しい知識を理解し、グローバルな見方を持てるようにする。

1997 年の教育部による高等学校での、第二外国語推進実験計画調査表（表 1）によると、台湾全省 16 校の学校で、フランス語、日本語、スペイン語、ドイツ

中、高雄女中、華僑高中

② 北一女中と師大附中

③ 景美女中、開平高中、陽明高中、北一女中、永春高中、建國高中、埔里高中、鹿港高中、協同高中、淡江高中、金陵女中、屏東女中、永平高中、台南女中、高雄女中、華江高中、華僑高中

④ 教育部（1997、6）『高級中學課程標準』 P.453

語合わせて 98 のクラスが開講予定となっていたが、実際に第二外国語が導入された実験高校は（表 2）の 17 校となった。実験としての第二外国語の中では、日本語の学習者数が最も多い。また、（表 3）が示すように教育部の発令前にすでに学校独自で第二外国語を導入している学校もあることが分かった。

（表 1）1998 年度高校第二外国語推進実験計画表

単位：クラス

学 校 名	フランス語	日 本 語	スペイン語	ドイツ語	合 計
景美女中	2	2		2	6
開平高中	8	12			20
陽明高中	2	3	1		6
北一女中	2	2	1	1	6
永春高中	2	8			10
建國高中	1	2		1	4
埔里高中				2	2
鹿港高中		3			3
協同高中		4			4
淡江高中	2	3		2	7
金陵女中		5			5
屏東女中		3			3
永平高中				3	3
台南女中		3			3
高雄女中	2	2			4
華僑高中	2	10			12
合 計	23	62	2	11	98

（教育部の資料による）

(表 2) 1997 年度高等学校第二外国語の導入概況

学 校 名	第 二 外 国 語 の 種 類	総 学 習 者 数	日 本 語 の 学 習 者 数
景美女中	英語、日語ド語、フ語	123 人	51 人 (41%)
陽明高中	日語、フ語、スペイン語	172	82 (48%)
開平高中	日語、フ語	158	158 (100%)
金陵女中	日語	155	155 (100%)
淡江高中	フ語、日語、ド語	650	410 (63%)
建國中学	日語	80	60 (75%)
北一女中	日語、フ語、ド語	146	104 (71%)
永春高中	日語	240	240 (100%)
師大付中	日語	86	86 (100%)
埔里高中	日語、ド語	503	441 (88%)
鹿港高中	日語	118	118 (100%)
協同高中	日語	103	103 (100%)
華江高中	日語	59	59 (100%)
屏東女中	日語、ド語	105	85 (81%)
永平高中	ド語	90	0 (0%)
台南女中	日語、フ語	102	55 (54%)
高雄女中	日語、フ語	51	31 (61%)
華僑高中	英語、日語フ語	333	210 (63%)
合計		3,274	2,448 (75%)

(電話による問い合わせ。師大附中は学校独自の実験校)

(表 3) 教育部発令以前からの高等学校における第二外国語の導入概況

開課年度 民 国	校 数	学 校 名	第 二 外 国 語 の 名	対 象 学 年	学 習 時 間 ／ 週	1996 年 の 学 習 者 総 数	1997 年 の 学 習 者 総 数	1997 年 の 日 語 学 習 者 数
79 年	1	成功高中	フ語、日語 ＊	1 2	5 5	83 71	129	117 (91%)
80 年	1	花蓮四維 高中	日語	1 2 3	10 10 10	110 80 83	40	40 (100%)
80 年	1	基二信	日語	3	2	235	208	208 (100%)
81 年	1	基聖心	日語	3	2	89	310	310 (100%)
82 年	1	高雄復華 高中	日語	3 2 3	4 4 2	134 133 94	355	355 (100%)
82 年	1	景美女中	ド、フ 日、英語	1 2	3 3	118 45	123	51 (41%)
83 年	1	開平	日語	2	1	300	158	158 (100%)
84 年	1	新竹曙光 女子	日語	1 2	1 2	122 194	330	330 (100%)
84 年	1	台北文徳	日語＊	2	2	502	100	100 (100%)
合 計	9					2,393	1,753	1,669 (95%)

(教育部の資料と電話による問い合わせ。＊印はクラブ活動も含む)

3. 北一女の場合

3.1 1996 年における第二外国語の実施概況

北一女は 1996 年に学校独自の実験で、日本語を必修科目として導入した。対象学年は 2 年生から 3 クラスを学校側が選び実施した。概況は次の通りである。

1996 年北一女の第二外国語実施概況

対 象 学 年	2 年 生
学習時間／週	4 時間
一学期の総学習時間	72 時間
科目の性質	必修科目
学習の時間帯	原則として正規の授業時間内
クラスの数	3 クラス
学習者数	120 人（1 クラス 40 人）
教師	2 人（中国人：1 人、日本人：1 人）

3.1.1 必修科目としての実験日本語クラスを担当してみて

(1) 生徒の日本語に対する興味と反応

大学生や一般社会人に日本語学習の動機をたずねると、たいてい就職に有利、卒業後、あるいは将来日本へ留学に行きたい、仕事に関する資料や文献などが読めるようになりたい、といった就職面、仕事面、教養面などからのニーズが比較的多い。だが、高校における学校指定の実験クラスの生徒では、以下のような点に興味と関心を持っていた。具体的には、

1) アイドル崇拜

アイドルの名前が読めるようになりたい。アイドルの歌っている歌詞の意味が知りたい。五十音導入の二回目でもう歌いたがる生徒もいた。

2) 日本の雑誌、漫画、アニメが見たい。

3) 手持ちの日本製品の表示や説明書の意味が知りたい。

(2) 授業態度、クラスの雰囲気

まず取り上げねばならないことは、生徒は明るく、とにかく活発である。日本語に対する興味と関心度も高く、理解力も素晴らしい、とこういう大変いい条件のもとにスタートしたが、週 4 時間の授業であるため、また理解力に優れているため、進度も速い。したがって、多少の復習をしないと、一学期の半ばから苦しくなってくる。集中力がなくなり、はつらつとしていた生徒の顔から笑顔が消え、翌日の他の科目の試験勉強を始める生徒も出てきた。

(3) 問題点

集中力がなくなり、生徒の表情が苦しようになってきた原因は次の三点が考えられた。

- 1) 初めての高校生に対する日本語教育であるため、生徒の実態やニーズがよくつかめなかったこと。
- 2) すでに決まっていた読解教材^⑤を使用したため、シラバスを作らずに授業を開始してしまったこと。第一学期は試験の時間を除いて 72 時間学習した。第 1 課の五十音の導入から第 12 課まで進めた。教材の内容は豊富で 398 の新出語彙、66 の文型、77 の文法事項を学習したことになる。生徒は日本語は楽しそう、おもしろそうと期待に胸をふくらませて学習を始めたが、負担が大きかった。
- 3) 学習の時間帯は必修科目であるため、正規の授業時間内で行われたが、3 クラス中 2 クラスに関しては 1 週間に一度だけ午後の 3 時から 5 時までの連続した時間帯があった。3 時の開始時は元気よく始めるのであるが、4 時 30 分ぐらいを境に、生徒たちの顔に疲労の色が隠せない。

(4) 打開策

⑤ 『初級日語』三民書局 民国 84 年 10 月

こうした現状を考慮して、二学期から方法を変えた。中国人の先生は教材と平行して生徒による報告形式の授業をされたいと言われた。筆者は会話の教材^⑥に切り替えた。オーラル・アプローチとコミュニカティブ・アプローチの折衷法で日常的な身の回りの会話練習をし、できるだけ学習時間内で覚えられるものにした。1コマ 50 分の授業で必ず 2 つの短いダイアログの練習を徹底させる。学習事項を定着させるためには、前回の復習から入る。復習のダイアログで口ならしをした後、新しい語彙と文型、会話練習へと入っていく。教師が身振り、手振りのデモンストレーションをすると、生徒ものってくる。使用した教材は高校生のために編集された教材ではなかったが、高校生にふさわしいように臨機応変に語彙などを変えて使用した。学習者にとって、学習したことが自然に口をついて出るようになる、たとえそれがどんなに易しい言葉であろうとも、使えたという喜びは大きい。学習したことが聞いて分かり、使えた、通じたという喜びは教室活動を活性化させる大きな要因になる。以上のように二学期からは①読解及び日本や日本文化に関することの発表（中国語）と②基礎的な日常会話の二本立てとなった。

(5) 結果

授業の進め方と教材の見直しをした後は、生徒の顔に明るさが戻ってきた。教室でクラスメートのかばんなどにぶつかったりすると「あ、すみません」がでたり、教師のところに来る時も「先生、あの、ちょっといいですか」と言ってきたのには感心してしまった。教師に質問されてすぐに答えられない時などは「あ、そうですね。あの…」などと言いながらゆっくり答える、というように会話のストラテジーまでも体得できる生徒がでてきた。一年の締めくくりは生徒に浴衣を着せ、民謡「東京音頭」と「炭坑

⑥ 『輕鬆學日文』（初級編）允晨文化公司 1996 年 7 月

節」を歌い、踊り、若干ではあるが、日本文化の紹介も兼ねた。

3.2 1997 年における第二外国語の実施概況

3.2.1 概況

1997 年の実施状況は前年とだいぶ異なっている。まず、必修科目から選択科目に切り替わり、授業の時間帯も午後 4 時 10 分から 5 時 30 分までとなり、第二外国語の授業は一斉授業となった。概況は次の通りである。

1997 年北一女の第二外国語実施概況

	日 本 語	フランス語	ドイツ語
対象学年	2、3 年生	2、3 年生	2、3 年生
学習時間／週	4 時間	4 時間	4 時間
一学期の総学習時間	60 時間 ^⑦	60 時間	60 時間
科目の性質	選択科目	選択科目	選択科目
学習の時間帯	4 時 10 分から 5 時 30 分まで	4 時 10 分から 5 時 30 分まで	4 時 10 分から 5 時 30 分まで
学習者数 (145 名)	104 名 (3 クラス) 初級：85 名 中級：19 名 ^⑧	27 名 (1 クラス)	15 名 (1 クラス)
教師数 (5 名)	3 名 (中国人 1 名、 日本人 2 名)	1 名 (中国人)	1 名 (中国人)

3.2.2 初級班日本語クラスの様相

初級班の 2 クラスは日本人教師が 1 クラスずつ担当している。教材は高校生のために編集してある会話中心の教材^⑨を使用し、実用的な会話能力を養うことを目標にしている。学習開始 6 時間のところで「す」と「つ」、「と」と「ど」、

⑦ 1996 年度は 50 分を 1 時間としたが、1997 年度は 80 分を 2 時間として計算している。

⑧ 1996 年学校指定の実験クラス 3 クラス 120 人中 18 人が、中級クラスで 3 年生の一学期学習した。二学期は開講されていない。

⑨ ～高中（職）、専科生的～『輕鬆學日文』（入門編）允晨文化公司 1997 年 7 月

「だ」と「ら」の音を吹き込んだから聞いて欲しいと二人の生徒がテープを持ってきた。またケーブルテレビで見る日本のアニメでは「元気」「お元気ですか」「はじめまして」がすべて「你好!」という字幕になっていると聞いてきた生徒がいた。アイドルの歌っている歌詞の内容から、アニメの台詞、日本製品の説明書、日本人の名前の由来、助詞の使い方までと、多方面にわたってよく質問ができる。

だが、放課後という授業時間帯にはやはりいくつかの問題を抱えている。生徒は一日の授業が終了してから日本語のクラスにやって来るので、なかなか時間通りに授業がスタートできない。それに生徒もそれぞれのクラスの補講やクラス対抗戦の練習などで、授業に出席できない場合もまれにある。

3.3 アンケート調査

調査の目的

北一女で日本語を教えはじめて一年半になる。今年度は昨年度の問題点と反省を踏まえて一年間のシラバスを作り、カリキュラムも作成して授業に臨んでいるが、同じ学校で同じように授業してみても、必修科目と選択科目との違いは予想以上に大きかった。そこで以下の点を目的として、アンケート調査を試みた。

- (1) 学習者の具体的なニーズは何であるかを見極め、学習者の学習目標を設定することによってカリキュラム作成に役立てたい。
- (2) 学習者の授業時間以外の学習状況を把握し、より効果的な授業を目指したい。
- (3) 教材の量、授業の進度、授業の難易度の3点について生徒はどう評価しているかを明らかにしたい。
- (4) 高校での第二外国語の学習経験が将来生徒の学習計画やキャリアプランにどのくらい影響与えるものであるか、おおよその様子を把握しておきたい。

調査の対象者と時期

今年度（1997年）の初級の日本語を選択している生徒計85人（2年生：82人、

3 年生：3 人）と 3 年生の中級班 19 人の合計 104 人を対象にしている。調査の時期は第一学期の第二外国語の最終授業（期末試験）である 1998 年 1 月 15 日に実施した。初級班は基礎的な形容詞、形容動詞の学習が終わり、自動詞の学習を 2 時間したところである。

実施方法

実施方法は留置法を採用した。初級班については期末試験終了後、答案用紙と引き換えにアンケート用紙^⑩を渡し、記入してもらった。一部の生徒は担任の先生による期末試験前の補習授業があり、アンケートに答える時間がなかった。そのため初級班の有効回収率は 87%であった。中級班については班長に手渡し、一週間以内に回収してもらった。中級班の有効回収率は 95%であった。

3.3.1 アンケート調査の結果

調査の結果は初級班、中級班一緒に集計した。その理由は中級班の 3 年生も初めての選択としての日本語であり、人数も少ないこと。それに平日、試験と大量の宿題を抱えている状況は初級班と変わらないと判断したためである。今回のアンケート調査は大別して

- (1) 授業に関するもの
- (2) 授業時間以外の学習時間について
- (3) 学習の動機と学習目標
- (4) 継続学習意欲の有無について
- (5) 必要と思われる第二外国語は何か

について主に調査した。結果は下記の通りに項目別にまとめて述べる。

(1) 授業に関するもの

まず、教材の量、授業の進度、授業の難易度についての集計結果をまとめると次ぎのようになる。

⑩ 附録 a「問巻調査」を参照されたい

1) 教材の量

人数	多すぎる	やや多い	丁度よい	やや少ない	少ない	分からない
N=92	1人	29	57	4	0	1
	(1%)	(32%)	(62%)	(4%)	(0%)	(1%)

2) 授業の進度

進度	速すぎる	やや速い	丁度よい	やや遅い	遅い	分からない
N=92	5人	40	41	4	0	2
	(5%)	(43%)	(45%)	(4%)	(0%)	(2%)

3) 授業の難易度

難易度	難しすぎる	やや難しい	丁度よい	やや易しい	易しい	分からない
N=92	0人	22	66	3	0	1
	(0%)	(24%)	(72%)	(3%)	(0%)	(1%)

何が難しいかを項目別（複数回答を採用）にみると、下記の通りである。

1. 助詞 65人
2. 動詞の変化 63人
3. 文型 57人
4. 語彙 45人
5. 発音 6人

上記の結果により、62%の生徒が教材の量はちょうどよいと回答しているが、多すぎるとやや多いと思う生徒も33%を占めていることが分かった。授業の進度に関しては、速すぎるとやや速い（計48%）がちょうどよいの45%を上回っている。しかしながら、72%の生徒が授業の難易度についてはちょうどよいと思っている。生徒達はそれほど難しいとは思っていないのに、進度が速いと思っていることが伺える。その理由はどこにあるのか、まず、日本語の授業時間以外の学習実態に着目してみたい。

(2) 学習時間

授業時間以外に第二外国語としての日本語にどれぐらいの時間を費やし

ているか、その実態は下記の通りである。

1) 授業以外の学習時間について

	毎日一回	二日に一回	三日に一回	授業前に一回	授業後に一回	その他
15分以内	1人	0	1	13	1	0
16-30分	1人	0	4	22	5	0
30分以上	1人	0	4	8	2	0
N=92	3人 (3%)	0 (0%)	9 (10%)	43 (47%)	8 (9%)	29 (34%)

その他の項目で回答した生徒の内訳を見ると、

まったく学習しない 7人

試験の前のみ(5分) 5人

特に定めていない 17人

となっている。上記のように授業時間以外の日本語の学習については、授業前の47%、授業後の9%を合わせると56%の生徒が毎回授業の前後に勉強している。その学習時間は、45%の生徒が30分以内に集中していることが分かる。よって授業が進めば進むほど進度は速くなるように感じられることが推測できる。

(3) 学習の動機と目標

1) 学習の動機

学習の動機と目標はオープンアンサーの型を取って自由に書いてもらった。大別すると次ぎの三つのカテゴリーに分けられる。

①興味からくるもの

- ・日本が好き、興味がある。(21人)
- ・日本のもの、アニメ、ゲーム、漫画、アイドル、歌が好き。(14人)
- ・日本の雑誌が好きなので読めるようになりたい。(8人)
- ・日本語の読み物が閲覧できるようになりたい。(5人)
- ・日本へ旅行に行きたい。(5人)

②将来に関するもの

- ・外国語の学習が好き。一つでも多くの言語を習いたい。(15人)
- ・日本の文化を学び比較がしたい。(8人)
- ・外国を理解したい。(6人)
- ・日本語ができれば、就職や出国に有利。(6人)
- ・国際感覚を身に付けたい。自己の見聞を広げたい。(5人)
- ・日本語能力を高めたい。(3人)
- ・台湾では日本語は必要。(2人)
- ・日本へ留学に行きたい。(1人)
- ・自己を充実させたい。(1人)
- ・将来役に立つ。(1人)

③その他

- ・日本語は漢字があるから学びやすそう。(4人)
- ・友人の勧め。(2人)
- ・両親の勧め。(2人)

2) 学習の目標

学習の目標は一言でいうと、試験のための日本語ではなく、通じる日本語を学びたいというものが多い。具体的にまとめると以下の通りである。

- ・日常会話ができるようになりたい。(26人)
- ・日本人とコミュニケーションがはかれるようになりたい。(15人)
- ・「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を習得したい。(14人)
- ・日本の漫画や雑誌が読みたい。ケーブルテレビの日本語が分かるようになりたい。(8人)
- ・「話す」とことと「聴く」力をつけたい。(7人)
- ・日本へ留学して、日本の文化や風俗習慣、文学、方言の研究がしたい。(2人)

(4) 継続学習意欲の有無

本項は初級班で学ぶ 2 年生を対象に調査した。設問の意図としては 3 年生になっても、日本語を選択するかどうかの意向を確かめるものである。

継続学習意欲の有無

継続学習意欲の有無	継続する	継続しない	まだ決めていない
N = 71	26 人 (37%)	44 人 (62%)	1 人 (1%)

上記のように、三分の二の生徒が 3 年生になったら継続しないと回答している。継続するとししないのそれぞれの理由をオープンアンサーで答えてもらった。

1) 継続する理由

- ・ たったの一年間での学習ではものにならない。続けることによって効果があがる。(10 人)
- ・ 途中でやめるのは惜しい。(8 人)
- ・ 新しい語学学習で自己の能力を高めたい。(7 人)
- ・ 異文化に接し新しい知識を身につけたい。(6 人)
- ・ 中途半端は嫌い。(6 人)
- ・ 日本語が好きで興味がある。(3 人)
- ・ 日本語の方言に興味がある。将来できたらその方面の研究がしたい。
(1 人)
- ・ 外国語の学習が好き。(1 人)

2) 継続しない理由

大別すると以下の三つの項目に分けられる。

①進学問題や学業に関するもの

- ・ 負担が大きくて両立できない。(16 人)

- ・（学業が忙しい、休む時間もないなどで）疲れる。（12 人）
- ・時間がない。（11 人）
- ・大学入試が心配。（7 人）
- ・学業が繁雑になる。（4 人）
- ・ついていけない。（1 人）

②課外活動などに関するもの

- ・課外活動（儀隊）の練習時間と第二外国語の授業が重なる。（1 人）

③その他

- ・復習する時間のない語学学習はやっても意味がない。（3 人）
- ・父母の反対。（1 人）
- ・日本語は漢字があって易しいと思ったが、面倒である。（1 人）
- ・授業の時間が長すぎる。（1 人）
- ・現在の目標は簡単な会話のみ、その他は大学に入ってから考える。
（1 人）
- ・入試がすんだら塾で勉強するか、大学で選択したい。（1 人）
- ・日本語は投資した時間に見合うものが得られない。他の科目を勉強したほうが得策である。（1 人）

興味・関心・好奇心で始めた日本語だが、試験と宿題に追われている北一女の生徒にとって、新しい外国語の学習は生易しいものではなく、いつしか負担になっているという現状がこのアンケート調査から浮かび上がった。しかし、その反面 3 年生になっても継続すると答えた生徒の大半は、継続することによってこそ意味があり効果がある、異文化に触れ自己の見聞を広めたい、中途半端は嫌い、始めたからには何でも最後までやる、途中でやめるのは惜しい、というように学習への強い意欲が感じられる。学習の動機の中で最も多かった日本が好き、日本に興味がある、日本のアニメやアイドル、漫画、歌などが好き、というのは減少し少数派になるが、

すでに将来日本へ留学し、方言の研究がしたいと考えている生徒もいる。

(5) 重要と思われる第二外国語は何か

英語について重要と思われる第二外国語は何かとの問いに対して、以下のような結果が出た。

1) 英語について重要と思われる第二外国語は何か (N=92)

外国語名	ドイツ語	フランス語	日本語	スペイン語	その他
第一番目	4人 (4%)	9 (10%)	74 (80%)	2 (2%)	3 (3%)
第二番目	17人 (18%)	49 (53%)	6 (7%)	12 (13%)	8 (9%)

日本語を選択しているから日本語が英語について重要と答えたとも考えられるが、2. の項目で述べたように他の学校の第二外国語の選択状況をみても、今のところ日本語が第二外国語の中ではトップで、ついでフランス語が続いている。

4. 終わりに

今回の調査で分かったことは、日本語学習の動機は、興味・関心・好奇心から始める生徒が多いが、学習が始まると、生徒の学習目標は次第にはっきりしてくる。生徒の学習目標は、試験に合格するための日本語学習ではなく、基本的な日常会話の習得、コミュニケーション能力を身につけたいというのが圧倒的に多かった。また正規の授業時間以外はあまり学習時間が取れない現状での、新しい語学学習は負担も多い。したがって興味・関心・好奇心はあっても、3年生まで継続学習できない、継続学習する意志のない生徒の多いことも明らかになった。こうした状況下において、高校における第二外国語導入を成功させるためにはどうすればよいか。筆者なりの考えを以下の諸点にまとめてみた。

(1) 授業内容は生徒たちの日常に則した生活中心型の会話授業が望ましい。

(2) 生徒の負担にならない教材、授業内容でなければならない。

- (3) 学習時間内で覚えられるもので、学習したものはすぐ使えるものが好ましい。
- (4) なんとなく分かったというのではなく、学習したことが聞いて分かり、使えたという喜びを生徒に与えられなければならない。
- (5) カリキュラムを組んで、生徒を追い立てるのではなく、生徒の学習目標を見極め、ニーズとバランスを取りながら何を教えていくかを決めていく。
- (6) 日本の文化や最新の動きの紹介も兼ねた、生徒の興味を引く楽しいものを授業に盛り込むことも必要である。

教育部は高校における第二外国語の導入は将来的にみて、外国語のできる国際派の人材育成にあるとしているが、教育部にフォローアップの体制があるかどうかによって結果は大きく異なる。学校側は大学の入試科目ではない、第二外国語をどこまで重要視するか、担任の先生の理解と認識と協力を得ることも重要な鍵となってくると思われる。

附錄

問 卷 調 查

1998 年元月

本問卷調查是授課老師為了了解選修日語學生學習日語之狀況，請陳述你率直的意見，以做為教學研究之參考。

一、年級 ☐ 1. 二年級 2. 三年級

二、已學習日語有

☐ 1. 一學期 ☐ 2. 二學期 ☐ 3. 一年又一學期 ☐ 4. 其他 _____

三、除了上課時間以外（不含寒暑假），你每週利用多少時間學日語？

- ☐ 1. 每天一次（每次 ____ 分）
☐ 2. 每兩天一次（每次 ____ 分）
☐ 3. 每三天一次（每次 ____ 分）
☐ 4. 每次在上課前溫習一次（每次 ____ 分）
☐ 5. 每次在下課後復習一次（每次 ____ 分）
☐ 6. 其他 _____

四、學習日語的動機是（請自由回答並詳述）

五、上課用的教材份量

☐ 1. 太多 ☐ 2. 稍多 ☐ 3. 適中 ☐ 4. 稍少 ☐ 5. 太少

六、上課的進度

☐ 1. 太快 ☐ 2. 稍快 ☐ 3. 適中 ☐ 4. 稍快 ☐ 5. 太快

七、教科書的內容

☐ 1. 太難 ☐ 2. 稍難 ☐ 3. 適中 ☐ 4. 稍簡單 ☐ 5. 太簡單

八、學習時感覺最難的是（最多請選三項）

- ☐ 1. 發音 ☐ 2. 字彙 ☐ 3. 句型 ☐ 4. 助詞 ☐ 5. 動詞變化
☐ 6. 不覺得困難 ☐ 7. 其他__

九、想達到的日語學習目標是（請自由回答並詳述）

十、目前除了英語之外，你認為最需要學習的第二外國語是什麼？

- 最需要學習 1. ☐ 德語 2. ☐ 法語 3. ☐ 日語 4. ☐ 西班牙語
5. ☐ 其他_____

- 次需要學習 1. ☐ 德語 2. ☐ 法語 3. ☐ 日語 4. ☐ 西班牙語 5.
☐ 其他_____

〈高三同學請跳答問題十二〉

十一、當你升上高三時，是否想繼續選修日文？

1. ☐ 是。理由：_____

2. ☐ 否。理由：_____

（以上謝謝回答，並請重複檢查有否漏答處後交回！）

参考文献・資料

1. 莊隆福 (1996) 「台湾における高校生の第二外国語における諸問題」『東呉外語学報』11号
2. 浅岡高子 (1987) 「オーストラリアのハイスクールにおける Japanese Language Assistant についてービクトリア州の場合ー」『日本語教育』62号
3. 町田敬子・村上治子 (1987) 「日本語教育における映像教材、コンピュータ使用の現状と今後の方針」『日本語教育』62号
4. 川越菜穂子 (1989) 「オーストラリアの日本語教育ークイーンズランド州セカンドリースクールの日本語教師に対する調査からの報告ー」『日本語教育』67号
5. 松井朔子 (1981) 「オーストラリアの日本語教育」『日本語教育』45号
6. 蘇舛見弘美 (1981) 「日本語教授法の実態ーメルボルン地域の中高等学校の場合ー」『日本語教育』45号
7. 佐々木倫子 (1983) 「日本語授業と言語行動調査」『日本語教育』49号
8. 教育部 (1996年6月) 『高級中學課程標準』
9. 教育部技職司 (1996年1月) 『八十四年度公私立技職學校一覽表』